



「コブ付サヌカイト製石鎌」
(S X53014 出土)

現地説明会資料 2009/03/07(土)

長岡京跡左京第 530 次(7ANEJS-20 地区)

京都府向日市鶏冠井町十相 25 番地

調査期間平成 21 年 1 月 14 日～3 月 13 日 (予定)

推定地: 長岡京一条大路・東二坊坊間東小路交差点、左京二条二坊十六町
石田遺跡・鶏冠井遺跡、乙訓郡猪鹿里二十三・二十四坪

平成 20 年度 向日市埋蔵文化財センター発掘調査地へようこそ!

「遺跡見学ガイド」

◇成果と課題 ～向日市史跡「東院」周辺地域の解明、左京第525次調査をうけて～
今回調査地北隣、平成19年春季実施の長岡京跡左京第525次調査地において次の2点の成果を得た。(a)長岡京一条大路南側溝・東三坊坊間東小路・西側溝とつりき部の確認、(b)長岡京下層、石田・鶏冠井遺跡の縄文時代後期～晩期の生活痕跡(土壌状遺構)の確認、である。成果(a)・(b)を受け、第525次調査区に接続してあらたに調査区を設け成果を追加・検証する運びとなった。

(a) 関連では敷地西端に一条大路南側町の利用と小路の南延長を確認するための第1調査区、敷地東方に一条大路南側溝と南側の町内溝を探るための第2調査区を設けた。(b)では、縄文時代遺構群の南方への広がりか予想された第525次成果にあわせ第1調査区を精査の主眼においた。

◇今回の成果 ～低地の都人たちの暮らし、縄文後期の生活痕跡、3000年の歴史～
左京第530次成果は大きく3点に要約できる。

(a) 一条大路南側溝・東三坊坊間東小路南側溝を確認した。「掘」状の規模の前者は側溝内を勢いよく水が流れる段階、周辺から泥が流入して埋もれる水位の高い段階、地ならして埋め立てる段階を経る。豊富な出土資料とともに長岡京時代の土地利用、自然条件の変遷を窺う上で重要である。
(b) 縄文時代後期後半(宮滝式)期(巻き貝・痕文・凹線文、約3100年前)の生活痕跡を2箇所確認した。土壌状遺構であるが第1調査区東部の遺構は住居に関わる可能性も考えられる。石器製作関連資料(サヌカイト剥片)が完成品、製作途中の製品とともに出土する。遺構構成層をもちかえり、現地で確認したい更に微細な資料の回収が必要である。生活復原資料として第一級であると同時に、石器・土器類一括して今後京都の縄文時代の編年上極めて重要な位置を占めるであろう。
(c) 長岡京時代遺構の上位では、10世紀代を皮切りに14世紀前半の農地開発に関わる大掛かりな地形改変の痕跡を確認した。広く水平に切土し多量の土を敷き詰める。排水不良に対応した離水施設と推察される。近年の発掘成果は寺戸川地域における13世紀前半頃の灌漑系の整備、生産性が高い農地(二毛作の乾田か)の成立を示唆するが、14世紀代以降の再整備は生産力を更に高める所作とみるとともに、寺戸川下流の桂川本線の砂礫堆積による河床上昇と排水困難化にともなう離水の造作にあたる可能性を考えたい。木津川・宇治川はじめ京都盆地の地形と遺跡の関わりについての研究成果から類推される。山荒れ時代とされる「天井川」の時代の到来が示唆される。



図1 一条大路南側溝 S D53004 横断面 (モザイク写真展開図)

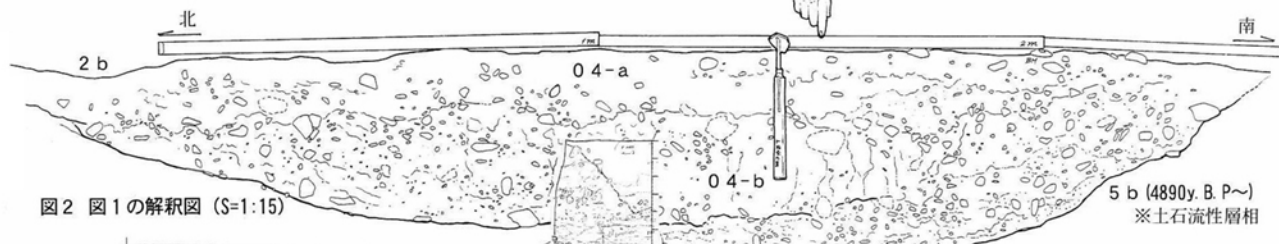
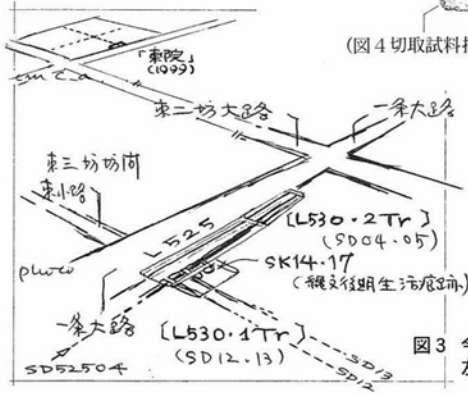


図2 図1の解釈図 (S=1:15)



(図4 切取試料投射)

図3 今回調査地と左京第525次「東院」(1995)

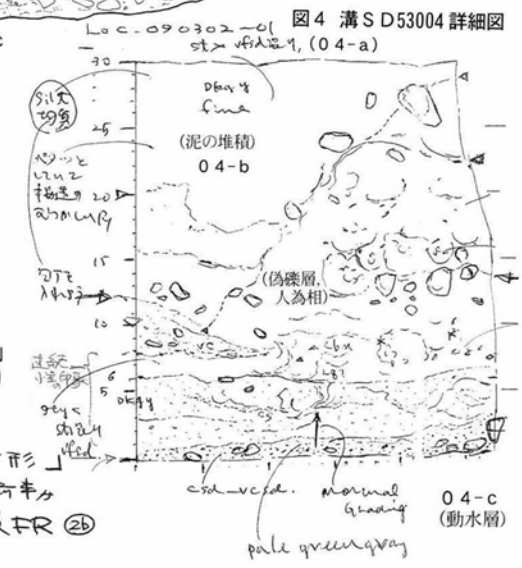


図4 溝 S D53004 詳細図

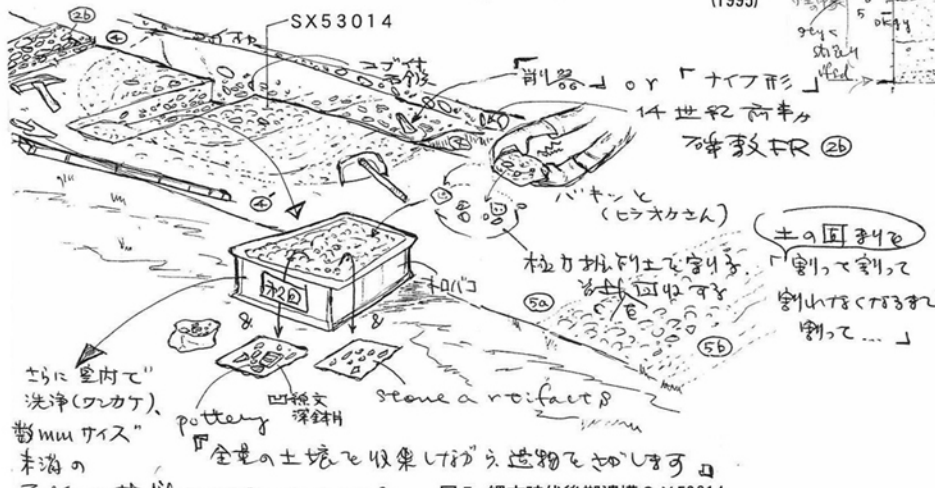
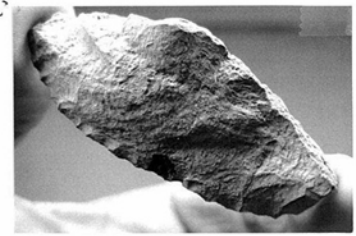


図5 縄文時代後期遺構 SX53014 調査過程～石器製作関連資料収集～



「サヌカイト製刮器・サイドスクレイパー」
(S X53014 出土)

長岡京跡左京第 530 次(7ANEJS-20 地区)

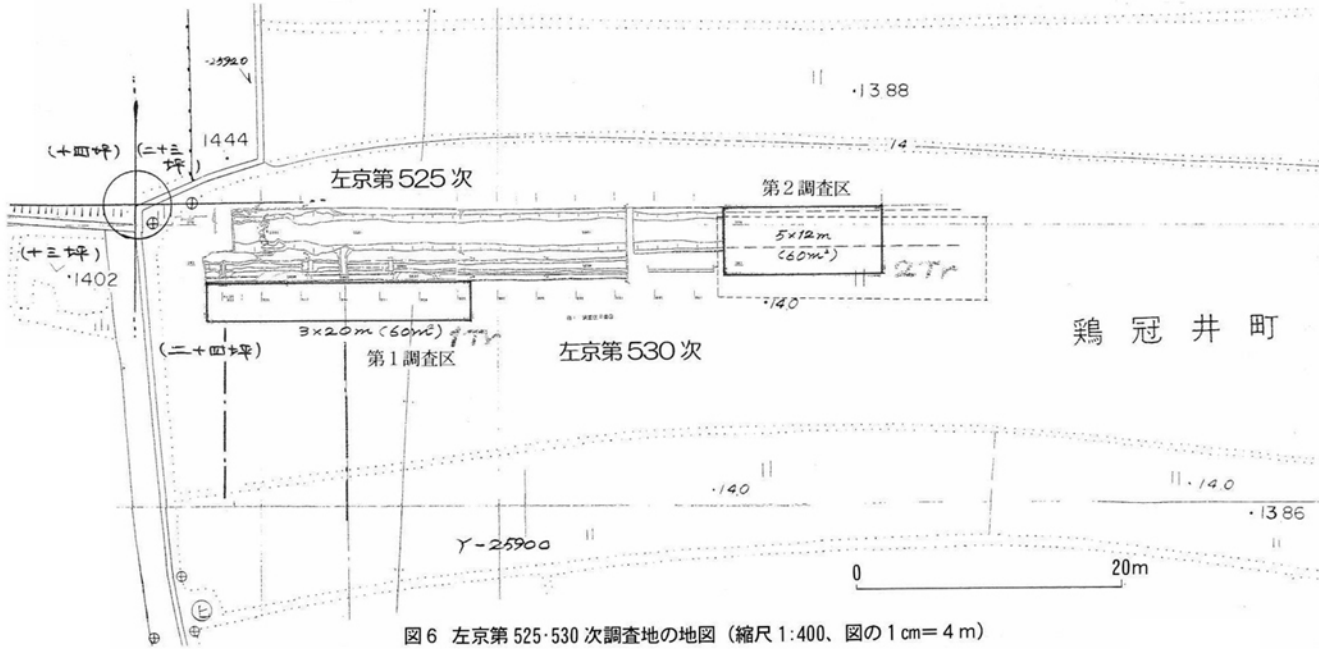


図6 左京第 525-530 次調査地の地図 (縮尺 1:400、図の 1cm=4m)

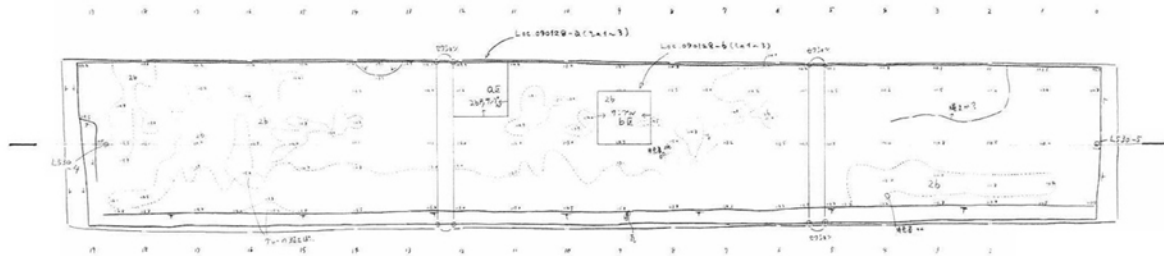


図7 第1調査区中世「礫敷」状遺構 (基本層序第2b層系、14世紀前半か)

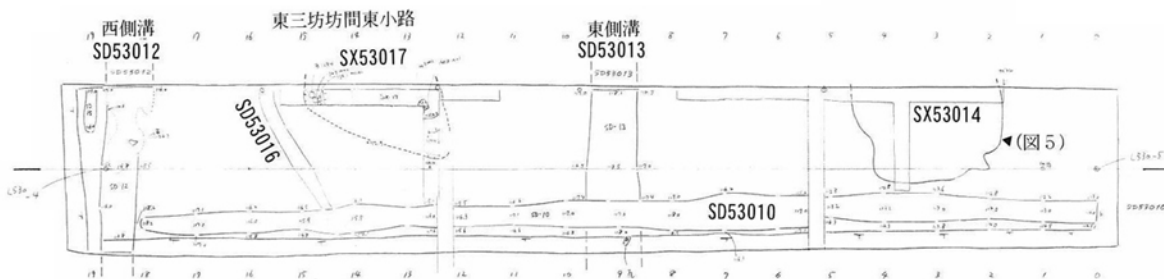


図8 第1調査区平安時代・長岡京時代・縄文時代遺構 (基本層序第2c~4層系)

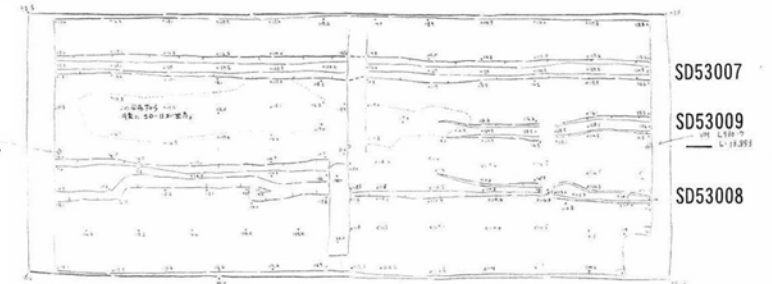


図9 第2調査区平安時代~中世耕作関連遺構 (基本層序第2b・2c層系)

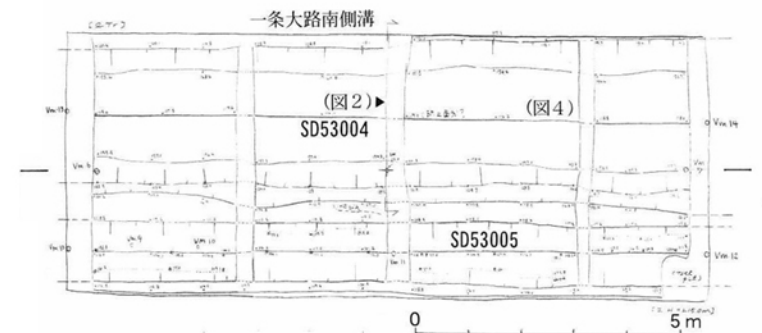


図10 第2調査区长岡京時代遺構 (基本層序第3層系)